

関西医科大学(前期) 数学

2023年 1月 28日実施

I 以下の設問に答えよ。各設問の答えは解答用紙の指定欄に記入し、上の枠内には答えの導出過程を簡潔に記入すること。

(1) $(a+1)(a-1)(b+1)(b-1) - 4ab$ を因数分解せよ。

(2) $(a+1)(a-1)(b+1)(b-1) = 4ab$ を満たす整数 a, b の組で、 $a < b$ の条件を満たすものは 組あり、そのなかで a, b のどちらも正の整数となる組 (a, b) は である。

解答

(1) 2乗の差の形を作る。

$$\begin{aligned} & (a+1)(a-1)(b+1)(b-1) - 4ab \\ &= (a^2-1)(b^2-1) - 4ab \\ &= a^2b^2 - a^2 - b^2 + 1 - 4ab \\ &= a^2b^2 - 2ab + 1 - (a^2 + 2ab + b^2) \\ &= (ab-1)^2 - (a+b)^2 \\ &= (ab+a+b-1)(ab-a-b-1) \end{aligned}$$

別解

a で整理する。

$$\begin{aligned} & (a+1)(a-1)(b+1)(b-1) - 4ab \\ &= (a^2-1)(b^2-1) - 4ab \\ &= (b^2-1)a^2 - 4ba - (b^2-1) \\ &= \{(b+1)a + (b-1)\}\{(b-1)a - (b+1)\} \\ &= (ab+a+b-1)(ab-a-b-1) \end{aligned}$$

(2) $(a+1)(a-1)(b+1)(b-1) = 4ab \iff (ab+a+b-1)(ab-a-b-1) = 0$ より、

$$\begin{aligned} & ab+a+b-1=0 \quad \text{または} \quad ab-a-b-1=0 \\ & \iff (a+1)(b+1)=2 \quad \text{または} \quad (a-1)(b-1)=2 \end{aligned}$$

《 模試・講座のご案内 》

受験相談会・後期模試・攻略講座を実施します

※詳細は最終面をご確認ください

$a < b$ に注意すると

$$(a, b) = (2, 3), (-1, 0), (-3, -2), (0, 1)$$

よって, a, b の組は 4 組であり, そのなかで a, b のどちらも正の整数となる組は $(a, b) = (2, 3)$ である.

II 初項 $a_1 = 2$ の等差数列 $\{a_n\}$ と初項 $b_1 = 0$ の等差数列 $\{b_n\}$ があり, ある自然数 k に対して $a_{k+1} = b_{k+1}$ と $a_{2k+1} = 0$ がどちらも成立している。これらの数列 $\{a_n\}$ と $\{b_n\}$ を用いて, 数列 $\{c_n\}$ を $c_1 = 1, c_{n+1} = \frac{a_{n+1}}{b_{n+1}} \cdot c_n$ (ただし, n は自然数) と定めるとき, 以下の設問に答えよ。

なお各設問の答えは解答用紙の指定欄に記入し, 上の枠内には答えの導出過程を簡潔に記入すること。

- (1) a_2 を k を用いて表し, a_{k+1} の値を求めよ。
- (2) b_2 を k を用いて表し, b_{2k+1} の値を求めよ。
- (3) c_k を k を用いて表し, c_{2k} の値を求めよ。
- (4) c_n が最大値をとるときの n を, k を用いて表せ。
- (5) $\sum_{r=1}^{2k} c_r$ を, k を用いて表せ。

解答

$a_{k+1} = b_{k+1} \cdots \textcircled{1}, a_{2k+1} = 0 \cdots \textcircled{2}$ とする。

(1) $\{a_n\}, \{b_n\}$ の公差をそれぞれ p, q とすると, $a_n = 2 + (n-1)p, b_n = (n-1)q$ である。

$$\textcircled{2} \text{ より } 2 + 2kp = 0 \iff p = -\frac{1}{k}.$$

$$\text{よって } a_n = 2 - \frac{n-1}{k} \text{ なので } a_2 = 2 - \frac{1}{k}.$$

$$\text{また, } a_{k+1} = 2 - \frac{k}{k} = 1.$$

(2) $\textcircled{1}$ より $2 + kp = kq$ であり $p = -\frac{1}{k}$ なので $q = \frac{1}{k}$ 。

$$\text{よって } b_n = \frac{n-1}{k} \text{ であるから } b_2 = \frac{1}{k}.$$

$$\text{また } b_{2k+1} = \frac{2k}{k} = 2.$$

(3) $n \geq 2$ のとき,

$$\begin{aligned} c_n &= \frac{a_n}{b_n} \cdot c_{n-1} \\ &= \frac{2 - \frac{n-1}{k}}{\frac{n-1}{k}} \cdot c_{n-1} \\ &= \frac{2k - (n-1)}{n-1} \cdot c_{n-1} \\ &= \frac{2k - (n-1)}{n-1} \cdot \frac{2k - (n-2)}{n-2} \cdot c_{n-2} \\ &\vdots \\ &= \frac{2k - (n-1)}{n-1} \cdot \frac{2k - (n-2)}{n-2} \cdots \frac{2k-1}{1} \cdot c_1 \\ &= \frac{2k - (n-1)}{n-1} \cdot \frac{2k - (n-2)}{n-2} \cdots \frac{2k-1}{1} \end{aligned}$$

よって, $k \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned} c_k &= \frac{2k - (k-1)}{k-1} \cdot \frac{2k - (k-2)}{k-2} \cdots \frac{2k-1}{1} \\ &= \frac{k+1}{k-1} \cdot \frac{k+2}{k-2} \cdots \frac{2k-1}{1} \end{aligned}$$

$$= \frac{(2k-1)!}{(k-1)!k!} (= {}_{2k-1}C_{k-1})$$

これは $k=1$ でも成立する。また、

$$\begin{aligned} c_{2k} &= \frac{2k-(2k-1)}{2k-1} \cdot \frac{2k-(2k-2)}{2k-2} \cdots \frac{2k-1}{1} \\ &= \frac{1}{2k-1} \cdot \frac{2}{2k-2} \cdots \frac{2k-1}{1} \\ &= 1 \end{aligned}$$

- (4) $n=2k$ のとき $c_{2k+1} = \frac{a_{2k+1}}{b_{2k+1}} \cdot c_{2k} = \frac{0}{2} \cdot 1 = 0$ であるから、 $n \geq 2k+1$ のとき帰納的に $c_n = 0$ である。

以下、 $1 \leq n \leq 2k-1$ において、 $c_{n+1} = \frac{a_{n+1}}{b_{n+1}} \cdot c_n$ における c_n の係数 $\frac{a_{n+1}}{b_{n+1}}$ と 1 の大小を比較する。

$$\frac{a_{n+1}}{b_{n+1}} = \frac{2k-n}{n} > 1 \text{ を解くと } 1 \leq n < k.$$

同様に

$$\begin{aligned} \frac{a_{n+1}}{b_{n+1}} = 1 &\iff n = k \\ 0 < \frac{a_{n+1}}{b_{n+1}} < 1 &\iff k < n \leq 2k-1 \end{aligned}$$

がわかるので、

$$1 = c_1 < c_2 < \cdots < c_{k-1} < c_k = c_{k+1} > c_{k+2} > \cdots > c_{2k} = 1$$

である。

以上から、 c_n が最大となる n は $n = k, k+1$ 。

- (5) (3) の議論から、 $1 \leq n \leq 2k$ において $c_n = {}_{2k-1}C_{n-1}$ であるから

$$\sum_{r=1}^{2k} c_r = \sum_{r=1}^{2k} {}_{2k-1}C_{r-1} = \sum_{r=0}^{2k-1} {}_{2k-1}C_r = 2^{2k-1} \quad (\text{二項定理による})$$

Ⅲ 1 辺の長さが 2 の正三角形とその内接円の接点を A, B, C とする。点 P が内接円の円周上にあるとき、以下の設問に答えよ。

なお各設問の答えは解答用紙の指定欄に記入し、左の枠内には答えの導出過程を簡潔に記入すること。

- (1) 内接円の中心を O とするとき、線分 OA の長さを求めよ。
- (2) $\vec{PA} \cdot \vec{PB} + \vec{PB} \cdot \vec{PC} + \vec{PC} \cdot \vec{PA}$ の値を求めよ。
- (3) $|\vec{PA}|^2 + |\vec{PB}|^2 + |\vec{PC}|^2$ の値を求めよ。
- (4) 点 P が円周上を動くとき、 $\vec{PA} \cdot \vec{PB}$ の最大値および最小値を求めよ。

解答

(1) 内接円の半径を r とおくと、

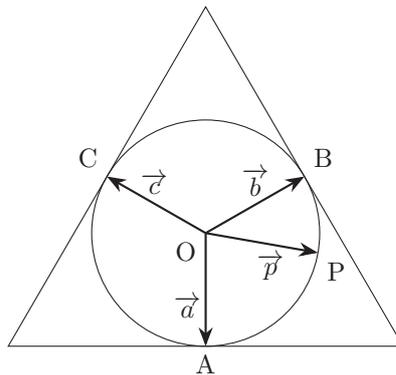
$$\frac{1}{2}(2+2+2)r = \frac{1}{2} \cdot 2^2 \sin \frac{\pi}{3}$$

より $r = \frac{\sqrt{3}}{3}$.

別解

O は正三角形の重心なので、AO は三角形の高さの $\frac{1}{3}$ 倍となるので $\frac{\sqrt{3}}{3}$ である。

(2) 以下、 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$, $\vec{OP} = \vec{p}$ とおく。



明らかに

$$|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = |\vec{p}| = \frac{\sqrt{3}}{3}$$

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = \frac{\sqrt{3}}{3} \cdot \frac{\sqrt{3}}{3} \cdot \cos \frac{2\pi}{3} = -\frac{1}{6}$$

$$\vec{a} + \vec{b} + \vec{c} = \vec{0}$$

が成り立つ。よって、

$$\begin{aligned} & \vec{PA} \cdot \vec{PB} + \vec{PB} \cdot \vec{PC} + \vec{PC} \cdot \vec{PA} \\ &= (\vec{a} - \vec{p}) \cdot (\vec{b} - \vec{p}) + (\vec{b} - \vec{p}) \cdot (\vec{c} - \vec{p}) + (\vec{c} - \vec{p}) \cdot (\vec{a} - \vec{p}) \\ &= 3|\vec{p}|^2 - 2(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) \cdot \vec{p} + \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{b} \cdot \vec{c} + \vec{c} \cdot \vec{a} \\ &= 3 \cdot \frac{1}{3} - 0 - \frac{1}{6} - \frac{1}{6} - \frac{1}{6} \\ &= \frac{1}{2} \end{aligned}$$

(3)

$$\begin{aligned}
 & |\vec{PA}|^2 + |\vec{PB}|^2 + |\vec{PC}|^2 \\
 &= |\vec{a} - \vec{p}|^2 + |\vec{b} - \vec{p}|^2 + |\vec{c} - \vec{p}|^2 \\
 &= |\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 + 3|\vec{p}|^2 - 2(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) \cdot \vec{p} \\
 &= \frac{1}{3} + \frac{1}{3} + \frac{1}{3} + 3 \cdot \frac{1}{3} - 0 \\
 &= \mathbf{2}
 \end{aligned}$$

(4)

$$\begin{aligned}
 & \vec{PA} \cdot \vec{PB} \\
 &= (\vec{a} - \vec{p}) \cdot (\vec{b} - \vec{p}) \\
 &= |\vec{p}|^2 - (\vec{a} + \vec{b}) \cdot \vec{p} + \vec{a} \cdot \vec{b} \\
 &= \frac{1}{3} + \vec{c} \cdot \vec{p} - \frac{1}{6} \\
 &= \vec{c} \cdot \vec{p} + \frac{1}{6} \\
 &= |\vec{c}| |\vec{p}| \cos \angle POC + \frac{1}{6} \\
 &= \frac{1}{3} \cos \angle POC + \frac{1}{6}
 \end{aligned}$$

となるので、 $\angle POC = 0$ すなわち P が C と一致するとき**最大値** $\frac{1}{2}$ となり、 $\angle POC = \pi$ すなわち P が O に関して C と対称な点となる時**最小値** $-\frac{1}{6}$ となる。

IV xy 平面において、2点 $A(3, 0)$, $B(-3, 0)$ からの距離の積が 12 に等しい点 P の軌跡を C とする。

次の問題 ①, 問題 ② からいずれか一方のみを選択し、以下の設問に答えよ。なお、解答用紙の選択欄には選択した問題の番号 (① または ②) を記入すること。

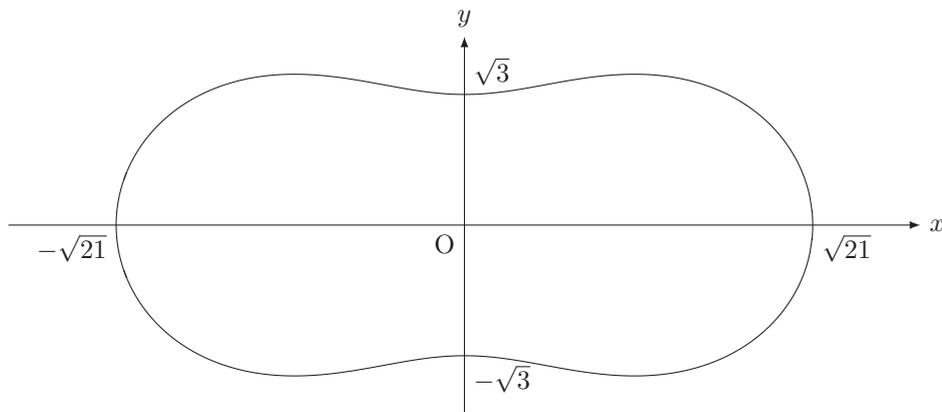
問題①

- (1) C は x 軸および y 軸に関して対称であることを示せ。
- (2) C と x 軸, C と y 軸との交点の座標をそれぞれ求めよ。
- (3) 点 P の y 座標のとりうる値の範囲を求めよ。
- (4) C で囲まれた図形を, y 軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積を求めよ。

問題②

- (1) C は x 軸および y 軸に関して対称であることを示せ。
- (2) C と x 軸との交点の座標を求めよ。
- (3) $f(x) = \log(x + \sqrt{x^2 + 4})$ とするとき, $f'(x)$ を求めよ。また, 不定積分 $\int 2\sqrt{x^2 + 4}dx$ を求めよ。
- (4) C で囲まれた図形を, x 軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積を求めよ。

解答



問題①

- (1) $F(x, y) = \sqrt{(x-3)^2 + y^2} \cdot \sqrt{(x+3)^2 + y^2}$ とおくと, C は $F(x, y) = 12$ と表される. C を x 軸に関して対称変換した曲線は $F(x, -y) = 12$ で表されるが,

$$F(x, -y) = \sqrt{(x-3)^2 + (-y)^2} \cdot \sqrt{(x+3)^2 + (-y)^2} = F(x, y)$$

だから C は x 軸に関して対称である. また, C を y 軸に関して対称変換した曲線は $F(-x, y) = 12$ で表されるが,

$$F(-x, y) = \sqrt{(-x-3)^2 + y^2} \cdot \sqrt{(-x+3)^2 + y^2} = F(x, y)$$

だから C は y 軸に関して対称である. (証明終)

- (2) x 軸との交点は $y = 0$ を代入すれば求められる.

$$F(x, 0) = 12$$

$$\iff \sqrt{(x-3)^2} \cdot \sqrt{(x+3)^2} = 12$$

$$\iff |x-3| \cdot |x+3| = 12$$

$$\iff x^2 - 9 = \pm 12$$

$$\iff x^2 = 21, -3$$

$x^2 = -3$ は実数解を持たないので $x = \pm\sqrt{21}$ である. したがって, x 軸との交点は $(\sqrt{21}, 0)$, $(-\sqrt{21}, 0)$ の 2 つ.

また y 軸との交点は $x = 0$ を代入すれば求められる.

$$\begin{aligned} F(0, y) &= 12 \\ \iff \sqrt{9+y^2} \cdot \sqrt{9+y^2} &= 12 \\ \iff 9+y^2 &= 12 \\ \iff y &= \pm\sqrt{3} \end{aligned}$$

したがって, y 軸との交点は $(0, \sqrt{3}), (0, -\sqrt{3})$ の2つ.

(3) C の方程式を整理する.

$$\begin{aligned} \sqrt{(x-3)^2+y^2} \cdot \sqrt{(x+3)^2+y^2} &= 12 \\ \iff \{(x-3)^2+y^2\}\{(x+3)^2+y^2\} &= 144 \\ \iff (x-3)^2(x+3)^2 + \{(x-3)^2 + (x+3)^2\}y^2 + y^4 - 144 &= 0 \\ \iff x^4 - 2(9-y^2)x^2 + y^4 + 18y^2 - 63 &= 0 \end{aligned}$$

$x^2 = t$ とおくと $t^2 - 2(9-y^2)t + y^4 + 18y^2 - 63 = 0$ となる. この t に関する2次方程式が $t \geq 0$ の実数解を持つ条件を求めればよい. $g(t) = t^2 - 2(9-y^2)t + y^4 + 18y^2 - 63$ とすると $z = g(t)$ の軸の方程式は $t = 9 - y^2$ であるから

(i) $9 - y^2 < 0$ の場合, つまり $y < -3$ または $3 < y$ の場合

$g(0) \leq 0$ が必要十分であるが $g(0) = y^4 + 18y^2 - 63 = (y^2 + 21)(y^2 - 3) \leq 0 \iff -21 \leq y^2 \leq 3$ であるからこの場合は解なし.

(ii) $9 - y^2 \geq 0$ の場合, つまり $-3 \leq y \leq 3$ の場合

判別式 D が0以上であればよい.

$$D/4 = (9 - y^2)^2 - (y^4 + 18y^2 - 63) = -36y^2 + 144 \geq 0 \iff y^2 \leq 4 \iff -2 \leq y \leq 2$$

以上より y 座標のとりうる値の範囲は $-2 \leq y \leq 2$ である.

(この結果より y 切片 $(0, \sqrt{3})$ が極大値でないこと, $(0, -\sqrt{3})$ が極小値ではないことがわかり, グラフの概形が最初の図のようになることが予想される.)

別解

C の方程式を整理すると $(x^2 + y^2 + 9)^2 = 36x^2 + 144$ であるが, $x^2 + y^2 + 9 > 0$ より

$$x^2 + y^2 + 9 = 6\sqrt{x^2 + 4} \iff y^2 = -(x^2 + 9) + 6\sqrt{x^2 + 4} \quad (= h(x) \text{ とおく})$$

となる. ここで, $h'(x) = \frac{2x(3 - \sqrt{x^2 + 4})}{\sqrt{x^2 + 4}}$ より $x \geq 0$ の範囲で $h'(x) = 0$ を解くと $x = 0, \sqrt{5}$ となるので,

$h(x)$ の増減は次のようになる.

x	0	...	$\sqrt{5}$...	$\sqrt{21}$
$h'(x)$	0	+	0	-	
$h(x)$	3	↗	4	↘	0

したがって, $0 \leq h(x) \leq 4 \iff 0 \leq y^2 \leq 4$ となるので, $-2 \leq y \leq 2$ である.

(4) C の方程式は $x^2 = 9 - y^2 \pm \sqrt{-36y^2 + 144} = 9 - y^2 \pm 6\sqrt{4 - y^2}$ と表される. $y = 2$ のとき $x^2 = 5$ であるから, y に対する x の個数を考慮して, グラフは $(0, \sqrt{3})$ から $(\sqrt{5}, 2)$ までは単調増加, $(\sqrt{5}, 2)$ から $(\sqrt{21}, 0)$ までは単調減少であることがわかる. 従って $0 \leq x \leq \sqrt{5}$ のとき $x^2 = 9 - y^2 - 6\sqrt{4 - y^2}$, $\sqrt{5} \leq x \leq \sqrt{21}$ のとき $x^2 = 9 - y^2 + 6\sqrt{4 - y^2}$ である.

これより y 軸周りの回転体の体積 V_y は

$$\begin{aligned} V_y &= 2\pi \int_0^2 (9 - y^2 + 6\sqrt{4 - y^2}) dy - 2\pi \int_{\sqrt{3}}^2 (9 - y^2 - 6\sqrt{4 - y^2}) dy \\ &= 2\pi \int_0^{\sqrt{3}} (9 - y^2) dy + 12\pi \int_0^2 \sqrt{4 - y^2} dy + 12\pi \int_{\sqrt{3}}^2 \sqrt{4 - y^2} dy \end{aligned}$$

と表される。それぞれの定積分の値は

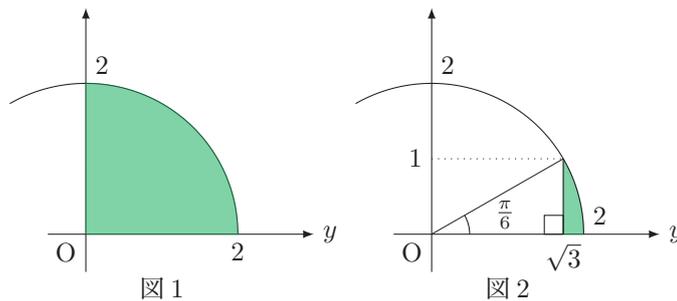
$$\int_0^{\sqrt{3}} (9 - y^2) dy = \left[9y - \frac{y^3}{3} \right]_0^{\sqrt{3}} = 9\sqrt{3} - \sqrt{3} = 8\sqrt{3}$$

$$\int_0^2 \sqrt{4 - y^2} dy = \pi \quad (\text{図 1 を参照})$$

$$\int_{\sqrt{3}}^2 \sqrt{4 - y^2} dy = \frac{\pi}{3} - \frac{\sqrt{3}}{2} \quad (\text{図 2 を参照})$$

であるから

$$\begin{aligned} V_y &= 2\pi \cdot 8\sqrt{3} + 12\pi^2 + 12\pi \left(\frac{\pi}{3} - \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \\ &= 16\sqrt{3}\pi + 12\pi^2 + 4\pi^2 - 6\sqrt{3}\pi \\ &= 16\pi^2 + 10\sqrt{3}\pi \end{aligned}$$



問題②

- (1) 問題① と同じ
- (2) 問題① を参照
- (3) $f(x) = \log(x + \sqrt{x^2 + 4})$ を微分すると

$$f'(x) = \frac{1 + \frac{2x}{2\sqrt{x^2 + 4}}}{x + \sqrt{x^2 + 4}} = \frac{\sqrt{x^2 + 4} + x}{\sqrt{x^2 + 4}(x + \sqrt{x^2 + 4})} = \frac{1}{\sqrt{x^2 + 4}}$$

である。(これより $\int \frac{1}{\sqrt{x^2 + 4}} dx = f(x) + K$ (K は積分定数) もわかる.)

また部分積分を利用すると

$$\begin{aligned} &\int \sqrt{x^2 + 4} dx \\ &= x\sqrt{x^2 + 4} - \int \frac{x^2}{\sqrt{x^2 + 4}} dx \\ &= x\sqrt{x^2 + 4} - \int \frac{(x^2 + 4) - 4}{\sqrt{x^2 + 4}} dx \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &= x\sqrt{x^2+4} - \int \sqrt{x^2+4} dx + 4 \int \frac{1}{\sqrt{x^2+4}} dx \\
 &= x\sqrt{x^2+4} - \int \sqrt{x^2+4} dx + 4f(x) + K \quad (K \text{ は積分定数})
 \end{aligned}$$

これより

$$\int 2\sqrt{x^2+4} dx = x\sqrt{x^2+4} + 4 \log(x + \sqrt{x^2+4}) + K \quad (K \text{ は積分定数})$$

- (4) C の方程式 $x^4 - 2(9 - y^2)x^2 + y^4 + 18y^2 - 63 = 0$ を y について降べきの順に整理すると $y^4 + 2(x^2 + 9)y^2 + x^4 - 18x^2 - 63 = 0$ となるので

$$\begin{aligned}
 y^2 &= -x^2 - 9 \pm \sqrt{(x^2 + 9)^2 - (x^4 - 18x^2 - 63)} \\
 &= -x^2 - 9 \pm \sqrt{36x^2 + 144} \\
 &= -x^2 - 9 \pm 6\sqrt{x^2 + 4}
 \end{aligned}$$

となるが、 $y^2 \geq 0$ より $y^2 = -x^2 - 9 + 6\sqrt{x^2 + 4}$ である。これより求める体積 V_x は

$$\begin{aligned}
 V_x &= 2\pi \int_0^{\sqrt{21}} (-x^2 - 9 + 6\sqrt{x^2 + 4}) dx \\
 &= 2\pi \left[-\frac{x^3}{3} - 9x + 3x\sqrt{x^2 + 4} + 12 \log(x + \sqrt{x^2 + 4}) \right]_0^{\sqrt{21}} \\
 &= 2\pi \left\{ -7\sqrt{21} - 9\sqrt{21} + 15\sqrt{21} + 12 \log(\sqrt{21} + 5) - 12 \log 2 \right\} \\
 &= \left(24 \log \frac{5 + \sqrt{21}}{2} - 2\sqrt{21} \right) \pi
 \end{aligned}$$

講評

I [整数] (標準)

整数 a, b についての方程式を、 $(整数) \times (整数) = 0$ の形に変形することがポイントとなる。この形に持ち込めればその後は易しかっただけに、この問題で差がつく可能性がある。

II [数列] (難)

2つの等差数列で定義された数列について考える問題。 n と k をしっかり区別して議論していく必要がある。(3)の難易度が高く、ここが突破できなかった受験生が大半だと思われる。

III [平面ベクトル] (標準)

正三角形とその内接円上の動点について、ベクトルの絶対値や内積の値を考える問題。各ベクトルの始点を O にすればよい、と発想できればあとは難しくなく、できれば完答が望まれる。

IV [数学Ⅲの微積分] (やや難)

2定点からの距離の積が一定となる点が描く曲線について、回転体の体積を求める問題。回転軸が x 軸か y 軸かで問題を自分で選択するという珍しい出題形式だった。いずれにしても計算はかなり重く、また4次式となることから扱いに困った受験生も多いだろう。完答することは難しく、部分点をいかに拾っていくかが重要。なお、この曲線は「カッシーニの卵形線」と呼ばれるものである。

昨年度は、大問が4問から5問に増えたのだが、本年度は4問に戻った。ここ6年間ほど、出題形式に何らかの変化が起り続けている。小問集合がないのは昨年度と同様である。

例年、易しい順に問題が並んでいることが多いが、今回のセットではIIとIVの難易度が高かった。IとIIIを完答に近いところまで仕上げ、II、IVでどれだけ立ち回れたかの勝負となる。例年よりは得点差がつきにくいだろう。

目標は55%。

解説動画公開中！

<https://www.mebio.co.jp/medicalschoo/answer/kmu>

メルマガ無料登録で全教科配信！ 本解答速報の内容に関するお問合せは… メビオ ☎0120-146-156 まで

 医学部進学予備校 メビオ ☎0120-146-156 https://www.mebio.co.jp/	 医学部専門予備校 YMS heart of medicine ☎03-3370-0410 https://yms.ne.jp/	 医学部専門予備校 英進館メビオ 福岡校 ☎0120-192-215 https://www.mebio-eishinkan.com/
--	--	---


 登録はこちらから

医学部受験相談会

医学部受験の悩みを講師が回答します (予約優先)

東京	2.1 (水)	9:00 ~ 12:00 ビジョンセンター西新宿
金沢	1.30 (月)・ 31 (火)	9:00 ~ 12:00 ANA クラウンプラザ金沢
名古屋	2.5 (日)	11:00 ~ 16:00 オフィスパーク名駅プレミア会議室
大阪	1.30 (月)・ 31 (火)	9:00 ~ 12:00 ホテルフクラシア大阪ベイ
福岡	2.2 (木)	9:00 ~ 12:00 TKPガーデンシティPREMIUM天神スカイホール
久留米	2.1 (水)	9:00 ~ 12:00 久留米ホテルエスプリ

関西医科大学 後期模試

大阪・福岡 会場 **2.22** (水) 9:30 ~ 16:05
エル・おおさか 英進館メビオ校舎

関西医科大学 後期攻略講座

大阪 会場 **2.20** (月)・**3.2** (木) 9:30 ~ 17:15
医学部進学予備校メビオ校舎

近畿大学 医学部 後期攻略講座

大阪 会場 **2.18** (土)・**23** (木) 9:30 ~ 17:15
医学部進学予備校メビオ校舎

詳しくは Web またはお電話で